

Risk Control in Tokyo
RISCON
TOKYO

危機管理産業展2021

Security & Safety Trade Expo
10.20^水-10.22^金 青海展示棟 (東京ビッグサイト) NEWS Vol.1

発行元：RISCON TOKYO 事務局

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2

大同生命霞が関ビル4階 アテックス(株)内

Tel. 03-3503-7641 Fax. 03-3503-7620

E-Mail ofc@kikikanri.biz

www.kikikanri.biz

リアル展示会ならではの商談機会を創出

国内最大級の危機管理総合トレードショー 7月16日(金)まで延長して出展受付中

『危機管理産業展(RISCON TOKYO)』と『テロ対策特殊装備展(SEECAT)』が、10月20日(水)から22日(金)の3日間、東京ビッグサイト青海展示棟で開催される。

事務局では開催に向けて予定通り準備を進めており、前回同様徹底した感染症対策のもと安心・安全な会場づくりを目指す。緊急事態宣言解除後を見据えて「本格的な営業活動再開の足掛かりとしたい」「この半年に活動できなかったこともあり、秋のPR機会は逃さない」と、事務局には出展に関する声が相次いでいる。依然として150社以上が出展を検討しており、事務局では7月16日(金)まで延長して出展を受け付ける。

コロナ禍の今だからこそ “リアル”の展示会を

長期化するコロナ禍において、政府・自治体や企業の危機管理能力がクローズアップされる中、10月に開催する「危機管理」をテーマとしたRISCONへの注目が高まっている。

RISCONには、社会を取り巻くあらゆるリスクに対処するための多種多様な製品・サービスが出揃う。「防災・減災」、「事業リスク対策」、「セキュリティ」の主要3分野に加えて、今回新たに『感染症対策TECH』、『危機管理におけるデジタル化・DX推進』を緊急企画として設定。Withコロナ/Afterコロナにおける新たな危機管理を提案する。



昨年以降、展示会業界もオンラインの活用が進むが、リアル展示会への期待は依然根強い。出展者、来場者ともに展示会場での直接の商談、情報交換、展示製品の体験などを重視する声も多い。コロナ禍の今だからこそ徹底した感染症対策のもと、各出展

分野と連動したセミナーや主催者企画を徹底強化することで、リアル展示会ならではの「体験」と「マッチング」の場を提供する。

感染症対策TECH

経済活動の現場にフォーカス 感染症対策の最先端

新型コロナウイルス感染症は依然として猛威を振るっており、収束に向けた兆しは未だ見えない状況にある。感染力が極めて高い変異株を端緒とする第四波も到来し、経済活動は危機的な状況に直面している。そうしたなか感染拡大防止に向けた「対策」は今後も長期にわたって継続する重要課題となっている。

RISCONでは、差し迫る緊急課題に向け緊急企画展『感染症対策TECH』を新設した。入退管理、非接触技術、飛沫感染予防など感染症対策に関わるあらゆる製品・サービスを網羅し、感染症の予防、拡大防止に向けたソリューションを発信する。出展募集開始以降、出展申込・問い合わせが増え続け、東京で10月に開催する本展への期待は高い。対策の要となる入退管理では、顔認証・マスク検知・測温技術が重要キーワードとなっており、日本コンピュータビジョンなど複数企業から出展の問い合わせが寄せられている。医療従事者をウイルスから守る感染防止衣も充実している。エイブル山内は日本エンコンと共に今年もコロナ対策製品を中心に防護具をラインナップ。アイテックスは使い捨ての感染対策ベストや緊急感染防止衣を医療の現場等に訴求したいと考えた。また除菌に関する技術発表にも注目が集まる。パナセアが浮



遊するウイルスを除菌する空間洗浄ミストを発表するほか、ハタヤリミテッドは銀イオンと光触媒による除菌照明の提案を行う。水戸工業は空間除染システムを出展する。他にもウイルス感染症の飛沫収集器の日本電化工機や船山がPCR検査用のトレーラーハウスの展示を予定するなど充実した内容となっている。

デジタル化・DX推進

長期化するコロナ禍で 「デジタル化」が加速

コロナ禍において急激に変化した生活様式やビジネス。企業では新たな「危機管理」が必須となっている。施設、店舗やオフィスなどのあらゆるビジネス現場において、感染症対策はもちろん、従業員の接触を減らすためのリモートワークが浸透し、さまざまな場面でオンライン化が加速している。コロナ後に向けた事業の存続と、少子高齢化、人口減少などによる人手不足などの長期的な視点から、ICTやAIなどのデジタル技術の活用は不可避。そのデータを活

リアル展示会 出展のメリットとは？

昨年以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの展示会が延期や中止に追い込まれた。展示会業界でもオンラインへの移行が進んでいるものの、コロナ禍で直接商談を行う機会が減っている今だからこそ、リアル展示会が必要だという声は多い。

1. 多くの見込み客層に直接アプローチ

展示会は特定のテーマに絞って開催されるため、来場者もそのテーマに関心のある人々が集まります。来場者全てが見込み客であり、確度の高いリード獲得が可能です。

2. 直接顔を合わせて商談

対面で商談を行うことは、相手に信頼感を得てもらいやすいという大きなメリットに繋がります。画面越しでは読み取れない反応から、よりの確かなニーズを汲み取ることもできます。

3. 製品の実機を見て商談

実機を活用しながらの商談は展示会の醍醐味のひとつです。実機を見て触れてもらうことは、オンライン上で見るよりも多くの情報を来場者に与えることができ、製品のメリットを実感してもらいやすくなります。



コロナ対策で変わる行政・自治体 官民連携に期待

コロナ感染症の早期収束を目指してワクチン接種、PCR検査など自治体と民間企業との連携が急速に進んでいる。コロナ禍における官民連携の取り組みは医療・福祉分野だけでなく、さまざまな市民への情報発信、行政手続きや窓口サービスの効率化、災害時の避難所における感染症対策、大打撃を受ける飲食業や観光業へのサポートなどの経済活動支援にも不可欠となっている。

政府・自治体では、昨年からコロナ対応により地域・組織間の横断的なデータ活用が十分であることなど課題が明らかになり、デジタル化への取り組みが加速。デジタル社会推進の取り組みとめ役として期待される「デジタル庁」が9月に発足することが決定した。昨年12月には「自治体DX推進計画」が策定され、地方自治体における今後5年間の重点取り組み内容が具体化された。地方自治体では「GovTech」に取り組む企業とのオープンイノベーションを通じて、新たなデジタル変革に積極的に取り組む動きも出てきている。

RISCONでは、自治体や企業が積極的に取り組む『デジタル化・DX推進』を緊急特別テーマとしてフォーカスする。離れた拠点とリアルタイムで情報共有ができるコミュニケーションツールを提案するブイキューブやSNSを中心にAIを用いてさまざまな最新のリスク情報を配信するJX通信社が早々に出展を決めたほか、AI機能で簡単に動画編集ができるクラウド動画作成ツールを提案する博士・comが初出展。これまでも防災やセキュリティ、事業リスク対策の分野においてデジタル技術の活用による提案が数多く出展されており、新しいサービスの創出に期待したい。

RISCONには毎年、政府、自治体関係者が多数来場。官民連携のマッチングの場として注目の展示会の一つとなっている。商談・情報発信・交流を通じて、コロナ後に向けた新たなビジネスチャンスを創出する。

コロナ禍で『危機管理』の総合展示会に注目高まる

喫緊の課題にフォーカスした 3つの特別テーマにも注目！

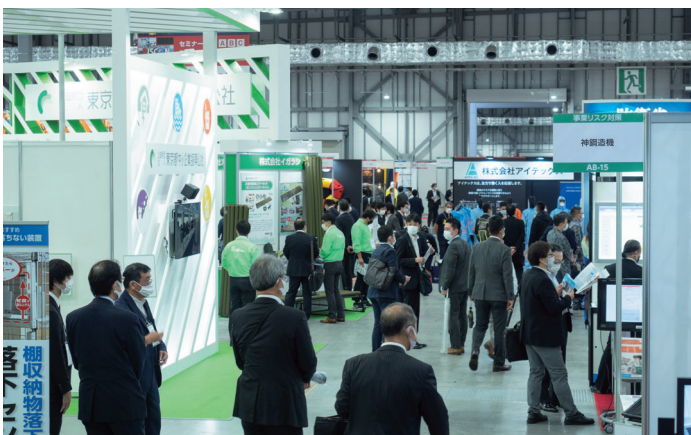
RISCONの主要展示分野となるのが『防災・減災』『事業リスク』『セキュリティ』の3分野。本年もそれぞれの分野で喫緊の課題を取り上げ、特別テーマとして焦点を当てる。防災・減災分野では『避難所運営・資機材』、事業リスク対策分野では『ワークスタイル変革』、セキュリティ分野では『駅・空港・商業施設・イベントのセキュリティ』に着目。各テーマに関連したセミナーやマッチング企画の実施も予定しており、展示との連動により来場者へ訴求していく。

防災・減災

大震災から10年 首都直下地震に備える

本年は東日本大震災から10年の節目の年。これを機に現状の災害対策を今一度見直そうとする動きが多くみられる。今後発生が危惧される首都直下地震や南海トラフ地震に向けた備えはもろろん、激甚化する気象災害への対応や感染症による避難所での複合災害への備えなど、国・自治体、企業の危機管理担当者は新たな課題の解決に迫られている。

本年のRISCONにおいては防災・減災関連の出展がさらに充実する。東京都中小企業振興公社は本年も最大小間で開催。防災技術で社会に貢献する中小企業28社が今年も一堂に会する。



クオリティソフトは災害対策で活躍するドローンを出展。安心安全なドローン運用を提案する。アイ・オール・システムはドローンに搭載可能なガス検知カメラを出展。重松製作所はCBRN災害、感染症対策用保護具を出展予定。アコード・インターナショナルは応急手当で使用する高機能性の救急用具を出展。富士グローブの災害救助用手袋や玉島産業の人命救助用工具セットなど、災害救助に役立つ提案も豊富だ。新規出展では、東邦電気が地震・火災から建物を守る感震ブレーカと水道連結型スプリンクラー設備を展示。佐藤工業所が夜間の消火・救助活動をバックアップする超高輝度LED照明装置で初出展を決めた。

特別テーマの『避難所運営・資機材』にも続々と出展企業が集まる。KEIKAKOコーポレーションは約1分で組み立てられるダンボールベッドを提案。実演・体験コーナーでの実演も予定している。エムシープランナーはリユースタイルカーペットの避難所生活施設への備蓄・活用を提案する。足立織物は省スペースに備蓄ができる世界最小の非常用圧縮毛布を展示。総合サービスは災害対策用トイレを紹介する。四国紙販売は備蓄に適した新しい衛生用品を多数展示予定だ。

主催者企画では『首都直下地震に備える』をテーマとした企画展示を新設。都市型災害対策に役立つ関連製品・サービスの提案を出展者から募集して集中展示する。



事業リスク対策

コロナ禍でテレワーク浸透 ワークスタイル改革進む

新型コロナウイルス感染症による影響は健康被害だけに留まらず、経済活動においても大規模な混乱や停滞をもたらしている。先行き不透明な状況の中、想定外の事態に備えるべく長期的な目線でリスクマネジメントの見直しを図る企業が増えている。

本年の『事業リスク対策』分野ではBCP・BCM策定・運用支援をはじめ、各種リスク保険、コンサルティングなど、企業・自治体の事業活動を取り巻くあらゆるリスクへの対策・提案を募集中。RISCONの主要来場層である国・自治体の危機管理担当者、一般企業の経営幹部、人事・総務担当者らへの絶好のPR機会となる。

さらに特別テーマとして『ワークスタイル変革』を新設。第3のニューノーマル時代の到来ともいわれる昨今、この新しい常態に順応すると共に、今後起きうる様々なリスクに備えて労働環境を見直す動きが活発化している。そうしたなか、新しい働き方の備えもBCPの一環と捉え、テレワーク・リモートワークの促進、ワークスペースの提案などに関連した資機材・サービスの提案の場を設ける。併せて主催者企画『BCP相談コーナー』を設置。本コーナーはBCP策定・運用相談をはじめとした具体的な課題を抱えた来場者との商談機会となる。事前予約制のため、効率的な商談が可能であり、出展者、来場者ともに参加無料のため多くのマッチングが期待されている。

セキュリティ

大規模イベントを見据えた セキュリティの提案も

開催まであとわずかとなった「東京2020」では不特定多数の人が集まる会場における感染症対策を含めたセキュリティが喫緊の課題。4年後の2025年には大阪・関西万博を控え、国際イベントにおけるセキュリティ対策は重要テーマとなっている。また、公共交通機関や学校、病院・福祉施設、大型集客施設などにおける無差別犯罪・事故が多発しており早期の対策が必要とされている。

新型コロナウイルス感染症による影響は健康被害だけに留まらず、経済活動においても大規模な混乱や停滞をもたらしている。先行き不透明な状況の中、想定外の事態に備えるべく長期的な目線でリスクマネジメントの見直しを図る企業が増えている。



安心・安全な会場づくり

RISCON TOKYOは政府・東京都・会場等のガイドラインに沿って徹底した感染症対策を実施します。



■非接触来場システム
(受付の密集を避けるため、QR対応の受付システムを導入)



■サーモグラフィや非接触体温計等による体温測定
(入口での来場者一人一人への体温チェック)



■体調不良者への対応管理
(隔離された救護室の設置)

■並び列、会場レイアウト (通路幅等の確保)



3m以上
通路

(ガイドラインにより緩和する場合があります)



■症状に該当する方の来場管理
(37.5度以上の発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、息苦しさなどの自覚症状のある方、海外渡航者等)



■展示場・会議室及び共用部の換気

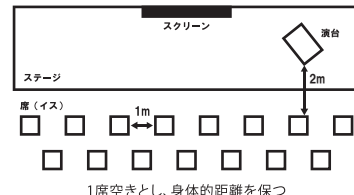


■会場滞在者全員のマスク着用
(出展者、来場者、主催者、協力会社等) 着用者への無料配布



■会場内、会場入り口への消毒液の設置の徹底
ならびに共用部の消毒

■セミナー会場等 間隔の確保
(ガイドラインにより緩和する場合があります)



本年の『セキュリティ』分野では「監視・警戒システム・カメラ」「検知・検査・分析・映像解析」「入退室管理・認証システム」などの関連資機材の出展を募集中。特別テーマとして「駅・空港・商業施設・イベントのセキュリティ」を掲げ、多角的なセキュリティを提案する予定だ。自治体や一般企業ではオフィスや業務の自動化・無人化、テレワークの普及が急激に進んだ影響により、従来とは異なる防犯対策の強化が急務となっている。

レッツ・コーポレーションはサーマル関連・AI搭載カメラや車番認識システムなどの映像ソリューションを展開。スリーディーは今年も最新のカメラシステムの出展を決定。山下産業は振動・歪・温度・湿度・液体等を感じ取り通信するソリューションを提案を予定。その他多くの企業が出展の最終調整を進めており、最新のカメラや認証システムなどのセキュリティ商品の展示に今年も注目が集まる。

ターゲットを明確に発信力を高めた併催企画を開催

4つの特別併催企画で確実なマッチング テロ対策専門展示会にも期待高まる

RISCONでは、本年も危機管理に関わる4つの注目分野を特別併催企画としてピックアップ。企画ごとにターゲットを明確化することで出展者と来場者のマッチング精度を高めている。展示に加えて主催者セミナーとの連動を図り、来場者の誘致を強化する。

国内唯一のテロ対策専門展『テロ対策特殊装備展（SEECAT）』も同時開催する。いよいよ開催が迫る「東京2020」や4年後の「2025大阪・関西万博」を見据えた新たなマッチングが始まる機会と位置づける。今回はコロナ禍での混乱に乗じたサイバー攻撃が多発しており、サイバーテロへの対策強化などにも関係者の注目が集まる。

気象災害・ リスク対策サミット

激甚化する気象災害

観測・予防で事前の一手

昨年7月には「令和2年7月豪雨」が発生。日本各地で大河川の氾濫、土砂災害や浸水により多くの人的・物的被害をもたらした。今年1月には日本海側を中心に広い範囲で記録的な大雪、暴風が発生。北陸地方では短時間で1mを超える積雪を記録した。

異常気象が相次ぐなか『気象災害・リスク対策サミット』は注目企画となる。風水害対策、雪害対策、熱中症対策、防寒対策など幅広い分野が対象。ソニックスは超音波風向風速計やドップラーソナーを展示。気象データをさまざまなリスク対策に活用する動きが広がっており、交通インフラの管理、需要予測、作業計画の作成などへの気象データ活用提案にも期待したい。



緊急時ライフライン確保

災害後の事業継続

エネルギー・電気の確保を

2019年秋、台風15号の影響により関東地方を中心に約93万戸が停電。千葉県では発生から1週間後も8万戸が停電から復旧できず、災害時におけるライフライン確保の重要性が浮き彫りとなった。



『緊急時ライフライン確保』は、災害などの緊急時に生活を守り、事業を継続するための電気・エネルギー確保、情報発信や通信の確保をキーワードにした特別併催企画。前年より新設された本企画には、初回より多数の企業が出展。

断やVRによるトレーニングなど、多様なアプローチでの出展が期待される。

サイバーセキュリティ ワールド

高まるサイバーリスク

中小企業も対策急務

コロナ禍の混乱に乗じたサイバー攻撃が急増している。大きな問題となったVPN装置を狙ったランサムウェア感染による身代金要求、オンラインシステムへのDOS/DDOS攻撃による営業妨害、機密情報窃取を目的とした標準型攻撃などソフト面のサイバー攻撃がより身近となった。リース機器のデータ情報漏えいなどハード面の問題も記憶に新しい。急速に進む業務のデジタル化の波、テレワークによる業務改革により、情報機器の持出が増加。経営者、従業員各個人の意識改革が重要との声も高まっており、サイバーセキュリティ対策への投資に前向きな企業が増えてきた。そうしたニーズの高まりを受け、パロンゴは新規に出展し、情報セキュリティソリューションを提案する。



『サイバーセキュリティワールド』は、RISCONに来場する危機管理担当者にはピンポイントで訴求が可能。展示ブース（3日間）とプレゼンテーション（1枠）

があらかじめセットとなった出展プランとなっており、「見せて」「聞かせる」ことのできる特別併催企画。自治体、中小企業との新たなマッチングの場として期待したい。

テロ対策特殊装備展 （SEECAT）

日本のテロ対策に

各国が注目

世界中で重要インフラや政府機関を狙った国際テロが絶えない。最近では不特定多数の人々を狙ったソフトターゲットテロ、サイバーテロなども頻発しており、大規模国際イベントを控える日本のテロ対策はより高度な対策が要求される。さらに昨年から長期化するコロナ禍で対策は困難を極める。

今年で15回目の開催を迎えるテロ対策特殊装備展（SEECAT）は、政府・自治体の治安関係者や重要インフラの関係者に来場者を限定したクロースドショー。国内外から最新のテロ対策資機材が揃う国内唯一の専門展示会となる。毎年開催されるアドバンスドセミナーでは重要省庁のキーマンが最新の情報を発信する。

エーティコミュニケーションズは衛星中継車、小型通信衛星システム、超小型アンテナを展示。セキュリティは監視装置をはじめとした最新のテロ対策装備品を展示予定。特設展示ゾーンでは「ソフトターゲット対策」「サイバーセキュリティ」「港湾警戒ソリューション」「ロボット・ドローン活用・対策」「画像・映像解析」「NBCRテロ対策」を設置。サイバーディフェンス研究所はサイバーセキュリティに関する専門サービス、クラウドサービス、トレーニング商品を出展する。ハナイは簡易設置のテロ・誤侵入対策用車両停止装置。ロボティクス・センタージャパンは世界で実績のあるテロ対策機材を紹介予定。世界中から日本の最新技術に注目が集まる。

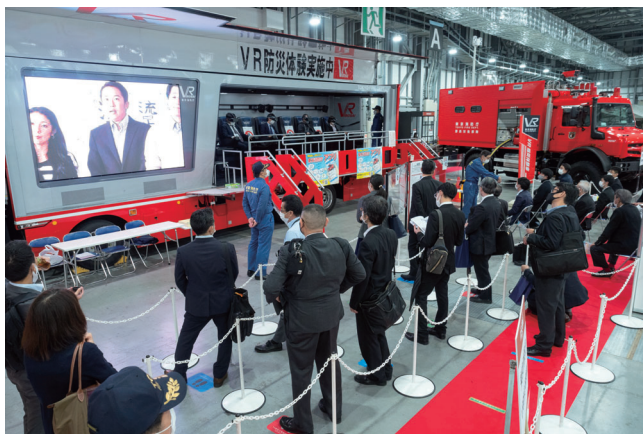
「危機管理」をテーマにした国内最大級の危機管理総合トレードショー

緊急企画展 Risk Control in Tokyo RISCON TOKYO 危機管理産業展2021 Security & Safety Trade Expo	緊急企画展 感染症 対策TECH	緊急特別テーマ 危機管理における デジタル化 DX 推進	特別併催企画 気象災害 リスク対策 サミット	特別併催企画 緊急時 ライフライン 確保	特別併催企画 PPE・ 労働安全 フェア	特別併催企画 CYBER SECURITY WORLD サイバーセキュリティワールド	国内唯一の 「テロ対策」専門展示会 危機管理産業展 特別併催企画展 SEECAT Special Equipment Exhibition & Conference for Anti-Terrorism テロ対策特殊装備展'21
--	------------------------------------	--	--	--	--	--	---

リアルによる「体験」「マッチング」とオンラインによるサービス強化

RISCONならではの 企画・展示を多数設置

RISCONでは、出展者・来場者ともに無料で参加できるマッチング企画を毎年実施している。出展者の製品やサービスを「体験」「直接対面で「マッチング」ができる「リアル」を一層充実させつつ、どうしても来場できない来場者にも、公式Webサイトからのオンラインマッチングを支援。コロナ禍で失いつつある出展者と来場者の新たな商談機会をバックアップする。



「危機管理実演・体験コーナー」

は、出展ブースを飛び出して広く来場者へPRが可能。特設会場ではロボットやドローンの実演など、およそ100㎡のスペースを活用したダイナミックなデモンストレーションも可能となる。出展者の実演に加えて、東京消防庁や防衛省などの協力によりVR震災体験や普段みることができない特殊車両や特殊装備などが体験できる人気の企画となっている。「BCP相談コーナー」は、課題を抱えた来場者とソリューションを提案する出展者のマッチングの懸け橋となる予約制の商談ルーム。事前に参加企業の提案内容を相談プログラムとして公開し、来場者からの相談予約を受け付ける。BCP策定に留まらず、感染症対策、デジタル化・DX推進、サイバーセキュリティ対策、備蓄

品相談など広く参加募集してプログラムの充実を図る。「感染症対策サポーター」は、展示会場における感染症対策を実施するための重要な役割を担う。来場者を安心・安全に迎えるための会場づくりに向けて、主催者と出展者が感染症対策に一体となって取り組む。その他にも東日本大震災から10年という節目の年にあたり、「防災・減災」分野では「東日本大震災から10年」「首都直下地震に備える」などの企画展示も準備を進めている。

「オンラインマッチング」も強化する。来場者のリクエストに出展者がWeb上で個別にアプローチできるマッチングサービスは会期前後1か月間利用可能。会期の商談予約はもちろん、会期前の事前相談や展示会に来場できなかった人からの会期後の問い合わせにも対応する。

毎年恒例のセミナープログラムにも期待したい。今年も日本を代表する危機管理の専門家による基調対談やシンポジウムを企画中。「感染症対策」や「デジタル化・DX推進」「緊急時ライフライン確保」など併催企画と連動したセミナーと併せて40セッション超を開講予定。一部セミナーは会期後に公式Webサイトからも視聴が可能だ。



出展者・来場者マッチング企画（参加無料）募集中！

危機管理実演・体験コーナー

展示会場内に出品者専用の実演スペース（約100㎡を予定）を無料でご用意します。自社ブースでは実現できない広いスペースを存分に使ったデモンストレーションが可能となりますので、ぜひご利用ください。ロボットやドローンの実演、VR・AI活用提案、ウェアラブル機器体験、最新の避難・救助資機材などの実演が可能な出展者の参加を広く募集します。



募集内容：「防災・減災」「事業リスク対策」「セキュリティ」に関わる製品・機器の実演

- 危機管理分野におけるロボット・ドローン活用提案
- 危機管理分野におけるAI技術やVR技術の活用における実演
- 災害時における避難・救助に関わる資機材・サービスなどの実演
- セキュリティに関する資機材・サービスなどの実演
- 労働安全に関わる資機材・サービスなどの実演 ほか

実演時間：各社1枠30分（準備から撤去までを含む）

BCP相談コーナー（予約制商談ルーム）

RISCONには毎年、官民あらゆる業界担当者から「危機管理」に関わるさまざまな課題やリクエストが寄せられています。なかでもコロナ禍において「BCPを見直したい」という声が増えています。本コーナーでは、BCP策定・見直し・運用相談はもちろん、コロナ対策や新しい働き方の提案、サイバーセキュリティ対策やデジタル化・DX推進提案など、多様化するリスクに対するさまざまな相談に対応できるよう幅広く出展者の参加を募集します。



募集内容：BCP策定・見直しに関わる製品・サービスの提案

- BCP・BCM策定・見直し・運用提案
- ワークスタイル変革、労務リスク管理に関する提案・サービス
- サイバーセキュリティに関する提案・サービス
- 感染症対策に関わる提案・サービス
- デジタル化・DX推進に関する提案・サービス

受付方法：事前・当日予約制 各社1日6枠（商談時間60分）

*公式Webサイトにて参加者の提案内容を相談プログラムとして公開。来場者からの事前予約を受け付けます。

感染症対策サポーター

RISCONでは、主催者と出展者が一体となってさまざまな感染症対策に取り組み、安全・安心な展示会として来場者の皆さまをお迎えしたいと考えています。対策の一環として全来場者が通過する会場入口などで、運営スタッフが出展者の皆さまよりご提供いただいた感染症対策資材や機器などを活用し紹介することで、さらなる対策の強化を図ります。また、来場者の皆さまへ配布する感染症対策製品なども募集します。



募集内容：会場運営スタッフが使用する感染症対策資材・機器および配布品の提供

- マスク、手袋、フェイスガードなどの配布品
- 手洗い、手指消毒・除菌剤関連製品
- 飛沫感染防止に関する製品・機器・サービス（飛沫感染防止用カーテン、シート、フィルムなど）
- 「非接触」に関する製品・機器・サービス（サーモグラフィー発熱者感知システム、非接触体温計など）
- ソーシャルディスタンス確保を周知するためのサイン、ステッカーなど

首都直下地震に備える（企画展示）

今後30年以内に70%の確率で発生すると予測されるマグニチュード7程度の大地震「首都直下地震」。今回のRISCONでは会場内に「首都直下地震に備える」をテーマにした企画展示エリアを設置します。関係機関の取り組みを展示やパネル等で情報発信するほか、都市型災害対策に役立つ関連製品・サービスの提案を出展者の皆さまから募集します。新たなマッチングの場として積極的にご活用ください。



募集内容：都市型災害対策に役立つ関連製品・サービスの提案

- 地震・津波対策、大規模火災対策
- 繁華街や駅・空港・商業施設・イベントなどにおける災害発生時のパニック対策
- 高齢者や外国人などの災害時要配慮者への支援・情報発信
- 高層ビル、タワーマンション、大型集合住宅等における停電対策、エレベーター対策
- 帰宅困難者対策、避難所用資機材
- 被害予測・シミュレーション など